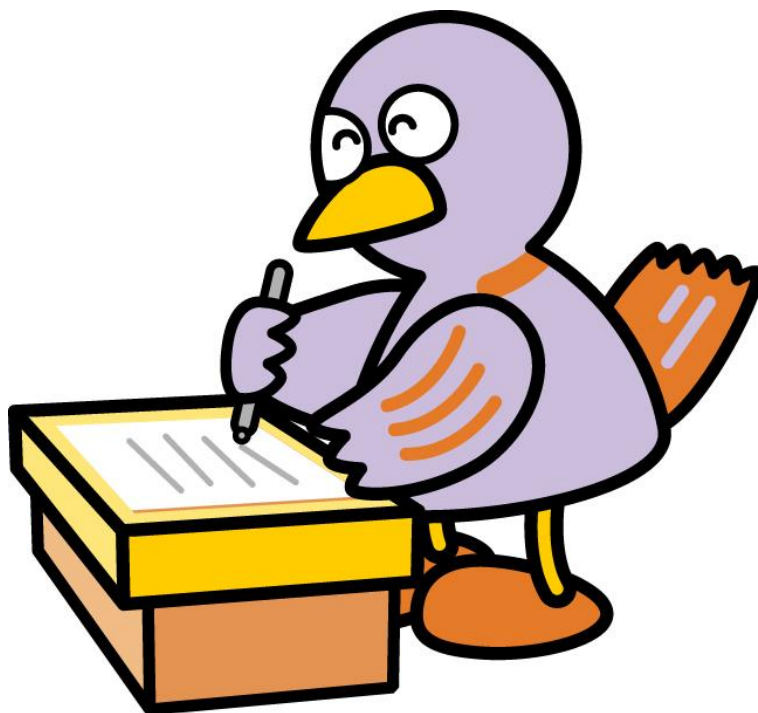


# 特別支援学校支援籍

(小中学校から特別支援学校へ)



埼玉県のマスコット「コバトン」

# 特別支援学校支援籍 1 (視覚障害)

## 【小学校(通常の学級)から特別支援学校へ】

### Aさんの自己紹介



- 小学校5年に在籍しています。
- 弱視です。
- 小学校では、拡大教科書、単眼鏡、ルーペ、拡大読書器を使って学習しています。

### 【Aさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成18年度～(5年目)

<支援籍校> ; 視覚障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 小学校の授業の補習(算数、国語、図形、家庭、その他コンパスの使い方など)
- (2) 視覚障害者のための補助具(単眼鏡、ルーペなど)の使い方を学ぶ
- (3) 必要に応じて適切なコミュニケーションがとれるようにする

### 【Aさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

3月	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談及び相談
4月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 毎週1回(1.5時間)

内容 ; 自立活動、教科学習の補習

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ
毎回	学習の内容については連絡帳使用
年1回	特別支援学校担当者の小学校訪問

[実施後]

次年度	年度当初に前年度の反省と今年度の方針を関係者で話し合う
-----	-----------------------------

### 【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) なし

(ボランティア) なし

(その他) 個別学習のための教室で学習する



日本地図のパズル

**【Aさんの支援籍学習（平成22年11月8日（月）の事例）】**

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
13:50	登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と一緒に登校しました。</li> </ul>
14:00	個別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの取り方の学習を兼ねて、Aさんが近況を話しました。</li> <li>・社会（地図、県庁所在地）の学習をしました。</li> <li>・日本地図の学習をパズルで行いました。大きめのパズルですが、図柄を判別しにくいいため、はめ込むのは苦労しました。また、県庁所在地をパソコンを使ってブラインドタッチで打ちました。</li> <li>・漢字をカードのゲームを使って学習しました。</li> <li>・立体の模型を使って、手で触った感じで、形を頭にイメージするという学習を行いました。</li> </ul>
	下校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と一緒に下校しました。</li> </ul>

**【支援籍学習を行って】**

- ・小学校で学習している教科を補習する内容を行っていることで、小学校での学習に対して自信が持てるようになりました。
- ・社会科は、地図の読み取りでは情報量が多く難しいということで、パズルなどを利用して学習しています。
- ・家庭科では、見えにくさから課題となっている調理やミシン掛けなどについて、学習しています。視覚障害の特別支援学校では、ミシン掛けで布を真っ直ぐに縫えるような補助具を使っているため、小学校の先生にも補助具を紹介して、小学校でも使ってもらっています。
- ・小学校の視覚障害に対する理解が進みました。
- ・コミュニケーションの課題では、学習の中で自分から話す場面を設定しました。



県庁所在地をパソコンで入力する学習

**【支援籍学習のスムーズな実施のために】**

- ・学習した内容が、小学校で生かされるようにすることが大切です。また、視覚障害に対する配慮の仕方などを小学校と特別支援学校で共有することが重要です。
- ・小学校の先生や保護者とのやり取りは連絡帳で行います。本人のニーズに合った内容となるよう、連携を図ることが大切です。

## 特別支援学校支援籍 2 (聴覚障害)

### 【小学校 (通常の学級) から特別支援学校へ】

#### Bさんの自己紹介



- ・小学校4年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特に介助は必要ありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。通常の生活では手話は使っていません。

#### 【Bさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成20年度～(3年目)

<支援籍校> ; 聴覚障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 聴覚に関する専門的な学習を受けること
- (2) 同じ障害 (聴覚障害) の同年代の児童との触れ合いや交流を通して、「共に生きる」ということを児童自身が感じる

#### 【Bさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 学期1回 (1回に2日間連続で実施)

内容 ; 一日の授業にそのまま入る

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度について相談
-----	---------------------------------

#### 【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 一人で登校  
(途中まで保護者による送迎)
- (付添) なし
- (ホラソフイ) なし



社会科 (先生は手話と言葉で授業)

【Bさんの支援籍学習（平成22年11月1日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
8:00	登校	・途中まで保護者と一緒、その後一人で登校。8時頃には、他の児童と一緒に校門が開くのを待っていました。
8:50	国語（業前学習） 1 算数 2 社会 業間休み 3 国語 4 音楽 給食 5 6 図工	・通常の日課にそのまま入りました。 ・授業によっては、クラスを移動します。 ・算数は割り算の仕方を学習しました。小学校と同じ教科書を使っていたため、スムーズに学習に取り組みました。 ・社会科は、「暮らし」について学習しました。使っている教科書は違いましたが、同じような内容のため、特に違和感はなく学習に参加できていました。クラスメイトに自分から声をかけて見せてもらっていました。
15:05	下校	・同じ方向に帰る児童と一緒に下校し、途中から保護者と一緒に帰りました。

【支援籍学習を行って】

- ・聴覚管理ができました。（聴力の低下がみられない）
- ・本人や小学校の聴覚障害特別支援学校に対する理解が進みました。
- ・年数回の学習の機会ですが、自信を持って聴覚障害特別支援学校のクラスの一員として学習に参加しています。
- ・同世代の同じ障害の児童と一緒に生活することで、本人の自分自身の障害についての理解が進みました。
- ・同じ方向に帰る特別支援学校の児童と一緒に下校するなど、支援籍学習を通して、



特別支援学校の中に、友達がたくさんできました。



算数の授業

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・特別支援学校の少人数の教室に入るため、他の児童との関係作りは大変重要です。
- ・一日の授業にそのまま入るため、教科によっては、教科書が異なる場合もあり、その時は、誰かに見せてもらう等、臨機応変に対応していくことが大切です。



## 特別支援学校支援籍 3 (聴覚障害)

### 【中学校 (通常の学級) から特別支援学校へ】

#### Cさんの自己紹介



- ・中学校3年に在籍しています。
- ・難聴です。
- ・日常生活では、特に介助は必要ありません。
- ・会話や英語のヒアリングなどでは、時々聞き間違えてしまうことがあります。

#### 【Cさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成16~19年度 (3年間) [中学校]平成20年度~ (3年目)

<支援籍校> ; 聴覚障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 中学校での学校生活をよりよく送れるように生活面、学習面で支援すること
- (2) 聴力が低下しないように聴覚管理をすること
- (3) 自分の障害について知ると共に、周囲の人に障害について理解してもらうこと

#### 【Cさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 週1回 (1時間)	
内容 ; 自立活動、教科学習の補充、聴力検査	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、FAX等で打ち合わせ

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

#### 【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 一人で登校
- (付添) なし
- (ボランティア) なし
- (その他) 個別学習用の教室で学習



情報保障についての学習

**【Cさんの支援籍学習（平成22年11月8日（月）の事例）】**

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
17:00	登校	・一人で登校しました。
	[自立活動] ・情報保障に関する学習  ・中学校での学習の補習	※授業の内容は、その日によって異なる。 ・日常生活や学習上で聞き取りに困った時の、情報保障の手段についての学習をしました。 ① 授業の内容を簡単にまとめて、情報保障をする手段としての要約筆記について ② 英会話のヒアリングをサポートする機器 ③ パソコンと小型ゲーム機を使った要約筆記など ・事前に学習する教科が決まっているのではなく、中学校で学習する中で、よく聞き取れなかったものなどの確認などを含めた補習をしました。 ・分からないことなど積極的に質問し学習していました。
18:00	下校	・一人で下校しました

**【支援籍学習を行って】**

- ・聴覚管理ができました。（聴力の低下がみられない）
- ・本人の自分自身の障害についての理解が進み、中学校の授業等で聞き取りが難しかったことなど、担当する先生にきちんと状況を伝えることができるようになりました。
- ・中学校の先生に聴覚障害の生徒に対する理解が進みました。  
（特別支援学校が作成した聴覚障害に関するリーフレットなどを活用して、周囲の人たちへの理解推進を図りました）
- ・特別支援学校で聴覚に関する学習を受けている中学生グループのリーダーとなったことで、自信が持てるようになり、学習に対しても、更に前向きに取り組めるようになりました。



教科学習の補習（理科）

**【支援籍学習のスムーズな実施のために】**

- ・学習の内容を、本人や保護者と良く相談して、きちんとニーズに合わせていくことが大切です。また、中学校での生活に活かされるものであることも大切です。
- ・中学生の場合は、内容についても本人とよく話し合って決めていくことが重要です。

## 特別支援学校支援籍 4 (肢体不自由)

### 【小学校(特別支援学級)から特別支援学校へ】

#### Dさんの自己紹介



- 平成21年度まで小学校に在籍し、特別支援学校支援籍を受けていました。現在、特別支援学校小学部5年に在籍しています。
- 電動車イスを使用しています。自分で操作します。
- 日常生活では、サポートが必要な時もあります。
- 自分の気持ちは、言葉で伝えます。

#### 【Dさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19~21年度(3年間)

<支援籍校> ; 肢体不自由特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

(1) 自立活動の学習を通して関節の可動域を広げるなどして、日常生活を豊かにする

#### 【Dさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 月1回(1日)

内容 ; 自立活動、課題別学習等

随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ
----	--------------------------------

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度について相談
-----	---------------------------------

#### 【支援籍を進めるに当たって】

(送迎) 保護者による送迎

(付添) 小学校の担任

(ボランティア) なし



自立活動(特別支援学校支援籍)

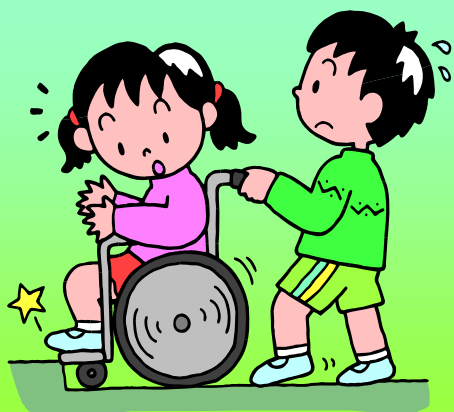


【Dさんの支援籍学習（平成20年12月10日（水）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
11:00	登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と一緒に登校しました。</li> </ul>
	自立活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の担任の先生と保護者（母）と一緒に授業に参加し、自立活動の内容について説明を受けました。</li> <li>・学習は、自分の体の様子を知り、姿勢を整えることや手足の使い方を高める内容です。</li> <li>・授業を始める時に、全員が本時の自分の目標について発表しました。Dさんも一緒に参加しました。</li> <li>・初めに、自分の身体の様子が良く分かるように、身体全体の力を自分から抜く学習をしました。次に、自分の姿勢に気付き、自分から姿勢を整えたり、手足を上手に使えるように自分の課題にチャレンジしました。</li> </ul>
11:45	下校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と一緒に下校しました。</li> </ul>

【支援籍学習を行って】[特別支援学校支援籍]

- ・自分と同じような障害のある児童と一緒に学習することによって、自分自身の障害に対する理解が進みました。
- ・特別支援学校の授業の流れの中で、児童に合わせて、ゆっくりと学習に取り組めたことで、課題の改善が図られました。
- ・小学校の担任の先生と保護者が学習と一緒に参加したので、学習している自立活動の内容について、直接伝えることができました。



足首の弛緩（特別支援学校支援籍）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・自立活動などの学習を効果的に行うためには、障害の状況をよく把握しておくことが大切です。
- ・自分の身体の入れたり、抜いたりする学習は、本人自身が理解しながら、学んで行くことが大切なので、本人や保護者に学習の内容を良く説明して行うことが重要です。

## 特別支援学校支援籍 5 (肢体不自由)

### 【小学校 (通常の学級) から特別支援学校へ】

#### Eさんの自己紹介



- ・ 中学校1年に在籍しています。
- ・ 車イスを使用しています。移動するときは介助者のサポートが必要です。
- ・ 日常生活では、介助者にサポートしてもらいます。
- ・ 自分の気持ちは、声かけに対する返事や表情で表したりします。

#### 【Eさんの支援籍】

<開始年度> ; [中学校]平成22年度～(1年目)

<支援籍校> ; 肢体不自由特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) コミュニケーション能力の向上を図ること
- (2) 摂食動作の充実を図ること

#### 【Eさんの支援籍学習の計画 (主な流れ)】

[実施に向けて]

随時	保護者からの希望提出 中学校担任等と面談 学校関係者、市教委関係者で相談 開始のための打ち合わせ
----	---

[実施]

回数 ; 月1回 (1日)	
内容 ; 自立活動、課題別学習等	
随時	担当者間で、必要に応じて、電話、 FAX等で打ち合わせ

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを 行い、次年度について相談
-----	---------------------------------

#### 【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎や送迎サービスの利用
- (付添) 中学校の介助員
- (ボランティア) なし



膝の弛緩に取り組んでいる (自立活動)

【Eさんの支援籍学習（平成22年12月9日（木）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
9:30	登校	・送迎サービスの方と一緒に登校しました。
	朝の会	・クラスの生徒が車座になり朝の会を行いました。日付、曜日等の確認や呼名、出席確認をしました。 ・支援籍学習にも慣れてきたためか、Eさんは気負うことなく参加していました。
	自立活動	・自立活動では、足首、膝、肩等の弛緩の学習に取り組みました。部分的に、固くなってしまっているところもあり、Eさんにとっても大変有効な学習となりました。
	課題学習	・課題別の学習は、絵本を使った読み聞かせをベースにした活動を行いました。音楽やヨーヨー釣りの竿に興味を持って学習に取り組みました。
	給食	・給食では、摂食動作の充実をねらいに、自分でスプーンを使って食べ物を口に運ぶ課題に取り組みました。
	午後の活動・帰りの会	・本の読み聞かせの学習にも取り組みました。
15:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習の回数を経るに従って、特別支援学校の先生やクラスメイトの雰囲気慣れ、緊張せずに授業を受け入れられるようになってきました。
- ・学習の中で行っている活動や人に対して、注視できるようになりました。
- ・コミュニケーション面では、特別支援学校のどの先生が声をかけても、表情と返事で応えられるようになってきました。
- ・美術や体育などの学習に参加し、活動の様子を注視したり、体を使って取り組むなど色々なことに対して、興味関心が広がってきました。そのため表情も良く、顔がしっかりと上がっていることが多くなりました。



意欲的に学習に取り組む（課題学習）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・保護者との連絡を密にして、本人の体調面についてしっかりと把握することが大切です。
- ・支援籍学習を実施したあと、報告書を作り、小学校との共通理解を図ることが大切です。

## 特別支援学校支援籍 6 (知的障害)

### 【小学校（特別支援学級）から特別支援学校へ】

#### Fさんの自己紹介



- ・小学校6年に在籍しています。
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍しています。
- ・日常生活では、場面によって介助者にサポートしてもらいます。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えますが、うまく伝わらない時もあります。集団での活動は得意ではありません。

#### 【Fさんの支援籍】

<開始年度>；[小学校]平成19年度～（4年目）

<支援籍校>；知的障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 自分の気持ちを相手に伝えたり、やりとりする力の向上を図ること
- (2) 集中して学習に取り組める力を身に付けること
- (3) 身体の使い方が上手になること

#### 【Fさんの支援籍学習の計画（主な流れ）】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出 小学校担任等と面談
4～5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数；月2回

内容；自立活動

随時	毎回の学習時に連絡帳を使用し、保護者、小学校担任と連携
----	-----------------------------

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

#### 【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) なし
- (ボランティア) なし
- (その他) 連絡帳の使用



数の学習

【Fさんの支援籍学習（平成23年2月28日（月）の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や児童の様子
16:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	最近の話 学習予定について	・担当者と小学校のことなどの話をしました。 ・文字や絵カードで本日の学習予定を確認しました。
	文字の学習	・絵カードを使って、単語を選んだり、書いたりしました。 マスの中に字が収まるように意識して書く練習をしました。
	身体の学習	・身体の使い方が課題なので、体操や片足跳び等を行いました。立った姿勢で靴下をはく練習をしました。
	数の学習	・5までの数、10までの数をタイルや数字板を使って学習しました。
	自由遊び	・自分がやりたい遊びを、自分で担当者に伝えるというルールで自由遊びをしました。
17:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で、個別に学習をする機会を持ったことで、一つ一つの活動に落ち着いて取り組めるようになりました。
- ・Fさん自身がやりたいことだけではなく、今まで取り組んできていないような新しいこと、苦手としていることにも取り組めるようになり、受け入れる気持ちに幅がでてきました。
- ・相手をしっかり見たり、話を聞くなど、学習に対する集中力が付いてきました。
- ・教科的な学習は、支援籍学習の時だけでなく、宿題として、家庭でも取り組むようにしたことで、定着が図られました。



身体の学習（ケンケン）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・保護者、小学校の担任との連携がとても重要なため、連絡帳を使用しています。特別支援学校からは毎回の学習の様子を伝え、保護者や小学校の担任からは、家庭や学校の様子を記入してもらい、お互いに共通理解を図りながら進めました。



## 特別支援学校支援籍 7 (知的障害)

### 【中学校(特別支援学級)から特別支援学校へ】

#### Gさんの自己紹介



- ・中学校3年に在籍しています。
- ・知的障害です。
- ・日常生活では、特に介助者は必要ありません。
- ・自分の気持ちは、言葉で伝えます。文章を書いたり読んだりすることは、あまり得意ではありません。

#### 【Gさんの支援籍】

<開始年度> ; [小学校]平成19年度(1年間) [中学校]平成20年度~(3年目)

<支援籍校> ; 知的障害特別支援学校

<支援籍学習のねらい>

- (1) 活動の流れを理解して、自信を持って取り組めるようにする
- (2) 文字や文章を書くときに形や大きさを意識して書けるようにする
- (3) 複数の動作のやり方や手順を覚えながら、相手に合わせて行動する力を高める
- (4) 将来の生活に必要な力(計算する、時間、電話など)を高める

#### 【Gさんの支援籍学習の計画(主な流れ)】

[実施に向けて]

4月	保護者からの希望提出 中学校担任等と面談
4~5月	学校関係者、市教委関係者で相談
5月以降	開始のための打ち合わせ

[実施]

回数 ; 月2回	
内容 ; 自立活動、部活動	
随時	毎回の学習時に連絡帳を使用し、保護者、小学校担任と連携

[実施後]

最終日	関係者で反省会を兼ねた打合せを行い、次年度について相談
-----	-----------------------------

#### 【支援籍を進めるに当たって】

- (送迎) 保護者による送迎
- (付添) なし
- (ボランティア) なし
- (その他) 連絡帳の使用



机上での学習(自立活動)

【Gさんの支援籍学習（平成23年度の事例）】

時間	内 容	具体的な内容や生徒の様子
16:00	登校	・保護者と一緒に登校しました。
	最近の話 学習予定について	・担当者と中学校のことなどの話をしました。 ・文字や絵カードで本日の学習予定を確認しました。
	作文の学習	・「最近頑張っていること」等をテーマに書きました。初めに、ポイントとなる言葉をあげ、次に具体的な内容を書きだしてから、まとめる形で作文にしました。 ・文字を書くときには、マス目のある用紙に書きました。
	身体の学習	・身体の使い方と複数の動作のやり方や手順を覚えながら行動する力を高めるために、ルールを設けた片足跳びの学習をしました。紙に書いてある手順書を覚えてから、決められた通りにケンケンをしたり、言葉だけの指示で覚えてケンケンをしたりしました。 ・ジャンプの時の身体の使い方も上手になりました。
17:00	下校	・保護者と一緒に下校しました。

【支援籍学習を行って】

- ・支援籍学習で、Gさんが一つ一つの活動に見通しを持って取り組めるようにしたことで、自信がつき、学習に対してとても意欲的になりました。そのため、以前は失敗したり、間違えたりすることを、Gさん自身も、とても気にしていましたが、学習を重ねる中で、「間違えちゃった」など自分で言えるようになりました。
- ・身体の使い方にぎこちなさがありましたが、色々な動きを学習する中で、バランス良く跳んだり、身体をコントロールすることができるようになりました。
- ・やりとりでは、相手を意識して合図を待つことができるようになりました。
- ・支援籍学習を通して、学習内容がレベルアップしました。



身体の学習（自立活動）

【支援籍学習のスムーズな実施のために】

- ・特別支援学校の担当者、保護者、中学校の担任の連携を図ることが重要です。（連絡帳の活用）。
- ・それぞれの担当者が、お互いの学校を訪問して、授業を参観する機会を持つようにすることも大切です。

# 支援籍学習を行って

小学校特別支援学級 保護者

息子は自閉症です。小学校の特別支援学級へ通う5年生です。息子は3才児検診の時、ちょっとおかしいとチェックに引っかかりました。それから、半年間、市の障害児の教室に通いました。月2回、集団で体操をしたり遊んだりしていました。本当に嫌がって泣いてばかりでした。特に他人に触られたりするのを嫌いました。その後、保育所へ障害児枠で入所し、2年間お世話になりました。 (中略)

特別支援学校支援籍を受け始めてから、1年と5カ月になります。この制度については、特別支援学校の父兄である友だちから聞いて知りました。それがきっかけです。

小学校に上がって、息子の問題な状態がよりはっきりしてきました。授業に参加していない。「聞いていないようで聞いています」とも、先生から言われましたけど、それでも困ると思いました。みんなで何かやりましょうという時に何も参加しないのでは、何にもなりません。運動の時も、一人すみっこに行って休んでいたたり。

このままじゃいけないのかもしれない、思ったりもしました。でも、どうしたら？解決策などありませんでした。そこで、この制度の話を目にしました。3年生の春です。なんて良い話、と。 (中略)

特別支援学校支援籍学習は、最初、国語や算数などのお勉強的なことをやるのかと漠然と思っていました。面接でお話をして、やりとりとかルールを覚えましょうと言われ、あれ？と拍子抜けしたのを覚えています。でも、先生の言う、それが正しかったことを後に実感します。やり取りを学ぶ、ルールを覚える、相手に合わせる、そういったことが、全ての基本だったからです。 (中略)

この学習を始めて、息子の成長には驚くものがありました。もちろん、それ以前だって成長はしていたのですが、この1年は急成長という変化だったと思います。勉強面も運動面もコミュニケーション面も、相乗効果で伸びているようです。

まず、やらなければならないことが分かって来て、勉強する姿勢が出来てきました。これは、特別支援学校支援籍学習の賜物ではないかと思っています。家でも勉強することが出来るようになりました。それが本当に嬉しかったです。

以前なら、座って取り組んだり、嫌なことを我慢してやることは出来なかったもので、家での勉強など考えられないことでした。 (中略)

おかげで今は、平仮名、ゆっくりですが、読めるようになって来ています。見て書けるようにもなって来ています。文字が入れば文化が入ると言われ、親も楽しみになりました。今は、家で、数字もちょっとやっています。でも、数の概念が分かってないみたい

で、文字も数字もごっちゃになっている感じです。これも地道に続けるしかないんだと思います。学校でのお勉強のノートを見せてもらおうと、みっちり埋まっていて、本当によくやっていることに頭が下がります。家でも、それを少しでも補えたらと思って、やっていきたいです。

次に、動作模倣が出来るようになってきました。

息子は、見て真似をするのが大の苦手でした。三つの積み木を、相手が積んだのと同じ形に積むことさえ、ずっとできませんでした。ひもにビーズを通すのに、相手と同じ配列で入れることが出来ませんでした。支援籍学習では、スピーテンという、カラフルな木の球を棒に刺す教材をやっていたのですが、図を見ながら、それと同じ色の配列で刺しているのを見て、びっくりしました。

春の運動会では、ラジオ体操の時、それらしい動きをしているのを見て感動しました。以前は全然動けなかったんです。 (中略)

もう一つ、特にコミュニケーション面が伸びました。以前は、親とか、ごく限られた人以外は、息子の中には存在していないかのようなようだったのに。小学校に上がっても、友だちは、意識の外だったと思います。それが、今は、自ら進んでお友だちに関わりに入っています。ちょっと関わり方に難ありではありますが、鼻を触るのが大好きで嫌がられています。まだまだ、一緒に遊んだりするのは上手くないと思うけど、どんどん出来るようになってほしいなと思います。

言葉もぐんと増えて、会話も成り立って来ています。

誰が、いつ、どこで、何を、という質問も、少しずつ答えられるようになっていきます。お風呂で、パパに、「今日の給食何食べた？」と聞かれているのですが、だんだん答えるメニューが詳しくなってきました。 (中略)

支援籍学習は、とても良いものだと思います。月に2回やってもらえることも、良いです。間隔が空くと効果が半減するような気がします。支援籍学習のような、素晴らしい機会が、どんどん増えて行ってほしいと思います。こういうサポートを必要としている子どもたちはたくさんいると思います。うちは、今年2年目ですけど、出来ることなら、もっともっと続けて受けたいというのが本音です。

最後に、この支援を受けられたことを心から感謝しています。特別支援学校の先生と小学校の先生が、息子に、とても愛情を持って接して下さっているのを感じていますし、両先生が、息子を伸ばしてやろうと連携して、力を尽くしてサポートして下さっていることを、とてもありがたく思っています。

注目・集中することができるようになれば、もっと伸びると言われました。彼なりの、ゆっくりでも、留まらない成長を願って、家庭でも頑張りたいです。

行けるところまで！

## 支援籍学習を行って

中学校特別支援学級 保護者

我が家には二人の子供がおります。

特別支援学校に通っております、中学部3年になる長男と中学校の特別支援学級に通っております中学2年になる次男です。支援籍学習でお世話になっていますのは次男です。

支援籍学習を知るきっかけになったのは、上の子どもが小学部の時から特別支援学校にお世話になっております関係で、家庭に持ち帰りました“特別支援だより”というお手紙でこのシステムを知りました。そういった意味では、情報がたくさんあった事、保護者同士の話題にも多くのぼっていたように思います。

当時、次男は小学6年生でした。5年生までは通常の学級に通い、6年生から特別支援学級にお世話になっていました。

次男にも障害があるのでは…と思うようになったのは就学前でした。その時はボーダーにあると言われておりましたので、沢山の子ども達の中で刺激を受け、得るものがあるのでは…と思い普通学級への就学を選びました。ところが、とにかく大きな事から小さな事までトラブル続きの毎日でした。

私としては、なぜトラブルになってしまうのか分からず、とても戸惑いました。なぜ戸惑ってしまったのかと言うと、家庭の中では問題なくすごせてしまっていたからです。問題が山積みで、それが嫌でも目に付いてしまう上の子に比べて、当時の次男は“言葉が少し遅れている様である”とか“理解力が少し乏しいようである”とか、授業参観や夏休みの宿題などで、向き合った時に感じる学習面のつまづきなど、断片的なことしか分かりませんでした。実際は手のかかる上の子のフォローまでしてくれる次男に問題点を感じる事ができませんでした。

それどころか、育てやすいとさえ、感じていた様に思います。

家庭の中では問題がなくても、学校では次々と問題が起こりました。次男をつれてお詫びに伺った家は30軒を超えておりました。その頃から、問題が起こると私が叱り、なぜ叱られているのか分からない状態の次男がそこに居る…という悪循環が始まり、自分も次男もボロボロになってしまっていくのが分かりました。

次男にとって、ハードルになっていることが何なのか…なぜトラブルになってしまうのかを知り、しっかりと支援していかななくてはいけないかもしれない…と思いはじめ、悩んでいた時に支援籍学習の事を知りました。ぜひに…と思い、手続きをとらせていただきました。

実際に支援籍が始まったのは小6の終わり頃だったかと思います。担任の先生と、授業に取り組む姿を参観させていただくと…うその様につまづいている部分がはっきりと



してきました。上手く表現できないのですが、気持ちの上では、点と点が線になる…という感じでしょうか…

例えば、体が上手く動かせない事でピタッと止まれないから、わざとではないけれど人にぶつかってしまうとか。時間の経過が分からないから、友だちとの約束が守れずトラブルの原因になってしまうとか。

耳で聞いたことを眼で確認して、動いてみるという事がものすごく苦手であった…というような事がら、次々に分かってきました。しかも学習的なこと、社会的、生活面、そして運動の力というのは、どれか一つ良いのではなく、バランスを保つ事で一步步前に進んでいく、という事がよく分かりました。

私の中で特に印象的だった事は、日記を書くという授業の時“丁寧に書いてね…丁寧にってわかりますか？”と先生が言った時、“わかりません”という次男の言葉に“うそっ”と思ってしまいました。なぜなら“丁寧”が分からない次男に対して、私は“丁寧にやりなさい”“丁寧にって言ったでしょ”とイヤと言うほど言ってきてしまったからです。

“うーん…〇ちゃんの場合はゆっくり書く、という事かな。それではゆっくり書いてください”。“ハイ”。という次男と先生のやり取りに、次男が何につまづき、そしてどう支援していかなければならないのかを知ることは、とても大切なことだという事が身にしました。 (中略)

以前の次男は、どこかいつも自信がなく、うつむきがちでした。おまけに、諦めもよく、どうしたものかと思っておりましたが、今では、支援籍の授業の中でも生活の中でも自信を持って取り組む姿が見られる様になりました。

挑戦をしてみるという事に対して消極的な次男が、支援籍学習の中では少し難しい事にもチャレンジしてみたいという意欲を出しはじめていますし、学校生活の中でもびっくりするほど意欲的に、また、この部分はお友だちに絶対負けたくないという姿も見られます。大げさに言ってしまうと、*“見違える様”*なのだと思います。

支援籍（特別支援学校）の先生方、また、中学校の担任の先生方とが連携を取り合い、あらゆる角度から支援していただいている事に大変に力強く、心強く感じ、感謝で一杯です。 (中略)

もう少し早くに支援籍があったらなあ…と思わなくはありませんが、こうして支援籍をしていただける体制がある今が、次男にとって支援していただくベストなタイミングだったのだと信じます。

これからも沢山の課題と、そして発見の中で良い事も悪い事も、次男の、また私たちの生きる力となる事が出来ます様、沢山のの方々のお力をお借りしながら、子どもたちと共に歩いて行かれたら…と思っています。今後ともよろしくお願い致します。

